繰越利益剰余金の仕訳ハンドブック

Money Forward クラウド

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2026年1月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

繰越利益剰余金の仕訳ハンドブック

繰越利益剰余金の基礎と仕組み

繰越利益剰余金とは、企業が創業から現在までに蓄積してきた「未分配の利益」のことです。

株主への配当原資となるほか、企業の財務安定性や将来の投資資源として重要な役割を持ちます。

貸借対照表（B/S）での表示位置

純資産の部 ＞ 株主資本 ＞ 利益剰余金 ＞ その他利益剰余金 ＞ **★繰越利益剰余金**

© MoneyForward, Inc.

繰越利益剰余金の仕訳ハンドブック

金額の決まり方（計算式）

当期の残高は、以下の要素を足し引きして算出されます。

- **プラス（増加）要因**
  - 当期純利益（その期に稼いだ利益）
  - 任意積立金の取り崩し
- **マイナス（減少）要因**
  - 期中配当額（株主へ配ったお金）
  - 利益準備金の積立額

通常はプラスですが、赤字（営業損失）が続いたり、災害等の特別損失が発生して過去の貯蓄を食いつぶしたりすると、マイナスになることがあります。

© MoneyForward, Inc.

繰越利益剰余金の仕訳ハンドブック

仕訳パターン1：別途積立金への積立

「将来の使い道のために、利益の一部を貯金（積立）しておこう」というケースです。

仕訳データ：繰越利益剰余金 60万円 を別途積立金に積み立てた場合。

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越利益剰余金	600,000	別途積立金	600,000

仕訳のポイント

1. なぜ貸方（右）が「別途積立金」なのか？
別途積立金を積み立てるということは、企業にとってその分の「資産（留保益）」が増えることを意味します。純資産の増加として、貸方に記入します。

2. なぜ借方（左）が「繰越利益剰余金」なのか？
積立金の元手（原資）は、これまで貯めてきた利益（繰越利益剰余金）です。ここから金額を移動させるため、借方に記入して同額を減らします。
※別途積立金とは、使い道を限定せずに企業が任意で積み立てる「任意積立金」の一種です。

© MoneyForward, Inc.

繰越利益剰余金の仕訳ハンドブック

仕訳パターン2：配当の決議

「株主に利益を還元（配当）しよう」と決まったケースです。

仕訳データ：繰越利益剰余金 60万円 の配当が決議された場合。

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越利益剰余金	600,000	未払配当金	600,000

仕訳のポイント

1. なぜ借方（左）が「繰越利益剰余金」なのか？
配当とは、企業からお金が出ていく行為です。その原資として繰越利益剰余金を取り崩す（減らす）ため、借方に記入します。

2. なぜ貸方（右）が「未払配当金」なのか？
「配当します」と決議しても、その瞬間に現金が振り込まれるわけではありません。実際に支払う日までは「株主にお金を払う義務（負債）」がある状態になるため、負債科目である「未払配当金」で処理します。

※会社法の規定により、配当を行う際は、配当額の10%を「利益準備金」として積み立てる必要があります（本仕訳とは別に処理が必要です）。

© MoneyForward, Inc.